

令和3年4月23日  
13:00~14:00  
ZOOMにて  
24時間安心在宅介護のクローバー合同会社

### 第3回 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス

#### 介護・医療連携推進会議録

##### (1) クローバー挨拶、構成員紹介(別紙あり)

令和2年8月に実施予定だったが、コロナ禍により本日に延期実施となった。

トトハウス松井様は、諸事情により欠席。

ご家族様の森下様、サービス終了となったため構成員からは外れることとなった。

##### (2) 自己評価・外部評価について

R2年8月に構成員の方々に説明を行い、外部評価をお願いしたが、内容が分かりにくく評価が困難だったと思われる。回収率は25%。

今後は内部、外部共に評価のしやすい内容に変更する必要があると思われる。

ホームページに掲載しているので、改善にあたりご意見を伺いたい。またご確認頂くこととする。

##### (3) 第三者評価について

R2年11月に受診予定であったがコロナの状況下に於いて延びており、R3年3月26日に受診となった。

(口頭での評価)

- ・利用者目線でのサービス展開が行えている。
- ・様々なルールが明文化されていない。マニュアル化・明文化を。
- ・もっとサービスの存在を公にしても良いのではないか。
- ・中長期定期的な計画を立て法人のシステム(ガバナンス)・リスクマネジメント・コンプライアンスを整備し、今不文律で出来ていることをきちんと形にしていくことが大事。

文書での評価は1ヶ月ほどかかるとの事で後日、正式な評価が送付される予定。今後ホームページ等での公表を行う。

山田氏：今回の改正のタイミング、医療情報の更新の情報があった時に実施するようにしているが、組織的に見直しの時期としては決めていないので自社でも取り組んでいかないとはいけないと思う。

鶴飼氏：マニュアルは一年に一回目を通すようにし、修正・追記・削除している。制度改正のタイミングではすべてのマニュアル等確認している。

長谷川氏：会議で確認するようにしている。在宅部で委員会を設定し動き始めている。ハラスメントについては法人でのマニュアルを活用している。

西村氏：仕事をしながら整備しないといけない気づきにより、どんどん追加情報が増えていく傾向にある。増えすぎたフォルダを整理していくことが必要だと思うが、チームで仕事をしていく中で分かりやすい仕事をするために決めごとが増えていくという現状がある。

今回第三者評価を受けるにあたり、更新の気づきを初めて得た。定期的に確認の機会を設定するの必要を感じた。また、全職員数としても委員会設置についてもどのようにすれば良いか悩んでいるが、皆様のアドバイスを参考に実施していこうと思う。

利用者アンケートについては直接第三者評価機関に送付されているので結果はわからないがそれも含めての評価公表になるのでホームページをご参照頂ければと思う。

#### (4) 新型コロナウイルスへの対応について

緊急事態宣言下に置いて社内規定等の更新を行ってきたが、緊急事態宣言が解除されてからは以下の対応と社内規定（前回配布）での対応を行っている。

- ・ ゴーグル・マスクの着用、訪問時と活動終了後の手洗い、アルコールでの手指消毒、身体介護が必要な方は手袋の着用（使用後は廃棄）。

- ・ 職員の自主的な行動制限

今後の情勢を見て随時変更していく。

#### (5) 自主点検について

最低1年に1回の自主点検が義務付けられている。本年度もR3年3月31日付で行い、4月中に評価を行う。

立脇と嶋田で自主点検を行った（3月31日）。4月中に計画作成責任者の米谷と後藤が評価を行う。

前は登録ヘルパーがほぼいない状態だったが、職員構成が変わると抜けていたところもあったので、しっかりと自分たちの目で確認していくことが重要だと感じている。

#### (6) R2年8月～R3年3月までの周知活動について

緊急事態宣言が解除の後は積極的に居宅への訪問を行っている。

7月16日、8月8日、11月17日、12月17日、R3年3月8日、4月12日、4月21日には居宅を回り周知活動を行った。11月の際は少し空き状況がある事を伝えるための広報も作成し訪問している。

護を考える会」にも参加。

R3年3月15日には醍醐ケアプランセンターに於いて、定巡のケアマネ向け勉強会を行った。

その他京都地域密着型サービス事業所協議会のネットでの10月7日のネットミーティングへの参加、11月11日のネットでの「オペレーター研修」への参加を行った。

武田病院と六地藏病院の地域連携室にも先日訪問した。

山科地区は高齢者の詐欺被害が京都府で一番多いという情報があった。毎日訪問するヘルパーが未然に防ぐ一因になれたりする。ご参考にして頂きたい。また、その他気になる情報があれば教えていただきたい。

## (6) サービス利用状況 (別紙あり：資料①)

・現在の連携訪看 8 件 前回より 1 件増加

この半年間の新規契約件数は16件。相談件数は41件だった。前期については相談件数が16件だった。相談件数が非常に増えているのは周知されてきているのかと考える。以前は事業所変更になることや家族の理解が得られないことが利用に至らない原因が多かったが、最近は入所か在宅かの選択になるケースが非常に増えている。また、要介護1や2で安否確認をメインに服薬、買い物や掃除での利用相談も増えている。自宅での生活での本人の不安感が強く家族に何度も電話して困っていることを請け負ってほしいという内容も増えてきており困惑している部分もある。この半年で求められているニーズの変化を感じている。

西村氏：要介護の軽い方も生活のリズムが整っていなかったり不定愁訴があったりということが定期巡回が入ることでリズムが安定して生活が安定してくるという必要性がある。長くお付き合い出来ることは事業所にとってもメリットがあると思うので、ぜひ要介護の軽い方についても積極的に受けて頂きたい。包括としても今後要介護状態になって居宅につなげていく利用者が非常に多いため、定期巡回が関わってくれるというのは安心できる。

→要介護の軽い方は訪問回数は少ないが訴えが非常に多い傾向がある。バランスの取れた運営をできればと思うが、要介護が変わっていく過程をずっと追っていくので在宅生活を支えている実感を持っている。

山田氏：認知症の強い人、不定愁訴が強い人はたくさんおり、毎日誰かが行って安心感に繋げたい方はたくさんいる。他のサービスを利用されており定期巡回を入れられないためはっきりとした症状はないがそういう電話が訪問看護にかかってくるケースが多い。そういう方については定期巡回を利用してほしいというケアマネに紹介しているが、単位数が足りないとか使いにくいと言って利用に繋がらない現状はあり、強く推していく必要があると感じている。また、入所施設が増えてきたり老健が看取りをし始めたことによって在

宅での看取りが少なくなってきた。本当に本人が安心して最後を迎えられる場所はどこなのかと個人的に悩んでいる。山科の利用者が多いのでクローバーさんに依頼するのは遠方で難しいと感じている。山科への進出もお願いしたい。

→DSをたくさん入れたい利用者や生活援助でまとまった時間を週に2回や3回を利用されている方については、DS回数が減っている、一回の活動が短くなることで支援が少なくなっていると感じられ使いにくいという感想に繋がっている。もう少し使ってもらえればご理解いただけるのではないかと感じている。

鶴飼氏：難病やガンの方をお願いするケースが多く、そういった方は自分で出来ることが多いので要介護度は低いですが自分で出来ない部分、生活を安定させてもらえることで安定した生活が送れる。その部分を訪問看護で担うのは非常に難しいので定期巡回で安定させてもらえることで医療的に必要な支援に集中できるので本当にありがたい。花山や御陵の利用者も多いが定期巡回はないのでぜひとも山科への進出をお願いしたい。

#### (7) 地域の潜在的なニーズについて(資料あり)

京都府、伏見区、醍醐地区での人口分布の変化。山科区は伏見区に比べてかなり事業所が少ないという情報も居宅様より頂いている。施設入所が出来ない方が多数おられることが想定される。労働生産人口が少なくなっていることで施設を作ってもそこで支える労働者が追いつかないであろう現状が見えてくる。

西村氏：全国規模でこうした状況は起こっている。データで変遷を追っていくことは大事だが、地域の住宅事情や住まいについての考え方というものが世代によってどんどん変わってきていることなどを知ることも重要。多世代で暮らす家も減っている。醍醐でも大きな家を構えていても子供が成人すると家を出てしまい、そのまま同居再開ともならず高齢者世帯となっている現状が多い。また子供が遠方に住まわられていて緊急時の対応を依頼出来ないケースが多く時代の移り変わりによって「家」への考え方が大きく変わっている現状を実感している。このあたりはデータに表れてこない特徴だと感じている。孤立死・孤独死は集合住宅で隣近所との付き合いが希薄なケースが多いという認識が一般的だが、一軒家の方でも同様に多いように感じている。そのような視点を持っていただけると考えの共有をしやすく思う。定期巡回が入ってもらえると孤独死などの問題もかなり防げるのではないかと考える。

内海氏：醍醐は複数の世帯が住んでもおかしくないような家が多いが、就職等々で離れそのまま自分の家を建ててこちらには戻ってこないという方が多い。大きな家に夫婦で住み、そのまま空き家となってしまっているケースが増えてきている。家族がいなくなり一緒に暮らすことが出来なくなっていくことを踏まえて、自分が高齢になっていく上で前もって情報を仕入れて自分の最後をどうするのかということを考える上での一助になって戴きたい。

→高齢者本人が自分たちがどのように生活していくのかを選択できるために、居宅だけ

などではなく弊社のようなサービスを知ってもらうための活動をしていくことが重要だと感じた。

(8) その他

外部研修を取り入れた。職員の育成により一層役立ていこうと思っている。

(9) 代表社員 星野より挨拶

サービス終了となった方のご家族よりお手紙を頂戴し、「クローバーさんがいなかったら家で生活続けることは出来なかった」とお言葉頂き今後も地域の方々を支える事業所としてより一層頑張っていきたいと思っている。

以上

